

JIA長野県クラブ'53

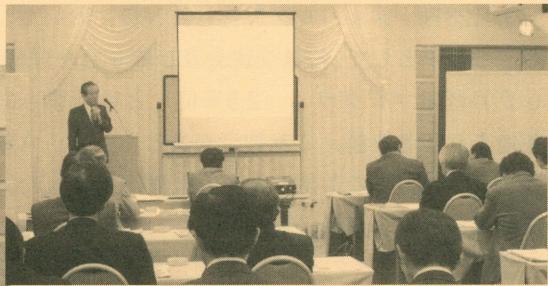
社団法人 日本建築家協会

2002. 3. 1

技術交流会



環境について熱心に勉強する会員



環境対応長寿命型防水工法などについて学んだ



保存問題栃木大会（日光東照宮にて）

「地方の個性」とは



副会長 依田政司

いつも、関東甲信越支部の委員会に出席する時は、長野新幹線を利用している。当然のことながら一人旅なので東京へ着く1時間半の間、車窓からの風景を眺めながらいろいろな事に想いをめぐらせていている。

特に冬の時期は軽井沢まで、雪を抱いた浅間山と透明な青い空、そして静寂と広がる佐久平を眺めながら過ぎていく。まさに冬の信州といえる風景である。やがて碓氷峠を越えて関東平野に差し掛かってくると、陽射しも和らぎ早春の田園風景が目の前に広がってくる。関東平野の中ほどに差し掛かると山並みは、はるかかなたに去り、茫茫たる平野が広がっている。畑で春の準備のために農作業をしている人も見える。まさに「春遠からじ」の風景である。

幾度となく往来しているにもかかわらず、冬の時期ほど私のふるさと「信州」と「関東地方」の違いを感じることはない。車窓から眺めるショッピングセンターやマンション、オフィスビルといった「町並みの個性」の違いは少ないというのに、気候を含めた自然環境の「地方の個性」の差異は明らかである。

80年代に「地方の時代」と喧伝されてから久しいが、

いまだに「地方の時代」は到来していない。それどころかバブル経済の後始末に、辟易している中でどこの地方都市も「地方の個性」を見失い、市街地の空洞化といった悩みを共有しているというのが現状なのである。

地方都市の市街地活性化のためには周縁部の保全と大型ショッピングセンター等の出店規制が必要であることは前回の私の巻頭言で述べたとおりであるが「地方の個性」を保全し、新しく創出することも重要なことである。

欧米ではすでに多くの地方都市が周縁部の保全や出店規制強化をし、市街地への自動車進入を規制する等「地方の個性」創出に動き出しているというのに、この国では大型ショッピングセンター等の出店を規制するつもりなど毛頭ないのである。

この問題の解決のための政治的課題は別とし、「地方の個性」の創出に対して私たち建築家やJIAが出来ることは何であろうか。

「地場産材の活用」、「町並みや民家の再生」、「里山や小川の保全」等がその例であろうか。そんなことを考えているうちに、「あさま」は日本の良さも悪さもすべて内包している地方都市「東京」に着くのである。



技術交流会 ～環境について学ぶ～

小林克己
(株)北沢建築研究所

1月23日、メルパルクNAGANOにおいて、今年初めての行事として、技術交流会及び新年会が開催された。CPD認定プログラム(2.5単位)という事もあり県内各地より50名を超える参加者があった。JIA新潟・群馬クラブの方々の参加もあり大変盛況であった。

技術交流会は、3社に担当していただいた。

- ・(株)ダイフレックス：「環境対応長寿命型防水工法」
建物寿命と防水(寿命)性能とのギャップを解決出来る可能性が見い出された。
- ・(株)本久：「環境改善対策の為の騒音制御」
感覚的要素の強い音響に対して、音の基本概念の整理、音響に対する対処方法など実験を通して実際に感じ取る事が出来たので大変参考になった。
- ・炭平コーポレーション(株)：「スタンプコンクリート＝インクリートシステム」
新しいテクスチャーへの可能性が見い出された(ロスの空港等の床材にインクリートのテクスチャーがあったと思われるが、撮影禁止場所なので個人的に大変参考になった)。

同：「夢の土＝ルーフソイル」

屋上緑化の手法、また更なる発展系のヒーリングガーデンの提案等は、これから建築計画に大いに役立ちそうだ。

各社とも、今話題になっている環境との調和がメインテーマとなっており、参加者は皆真剣に講師の話に耳を傾けていた。このような有益な技術交流の機会を、会員本人だけでなく、事務所の所員にも与えたいとの意見も出され、今後より充実した情報提供の機会作りが望まれていると感じた。

引き続き新年会が盛大に行われた。各個人が職能をより精進し、JIAの更なる発展を祈念して乾杯。

会員の皆様へお知らせ

2002年度通常総会

開催日 2002年5月15日(水)

会場 「メルパルクNAGANO」

長野市鶴賀高畠752-8

記念講演会 建築家 山本長水氏



B-ARCHITECT

関邦則
関建築+まち研究室

情報特別委員会担当の「愛と情熱の家づくり」vol.2がいよいよ完成です。今回は「建築家とつくる家」というタイトルをメインにしました。昨年から、内容の検討・原稿や広告の募集・編集と精力的に作業を続けてきました。今回は先の経験の上にスタートしたので比較的短期間にまとめることができたのだと思います。

今回は、作品紹介コーナーを各自で作成するという新しい方法をとらせていただきました。これはそもそも製作コストを削減するための究極の選択だったのですが、実際にやってみるとなかなか大変だったようで、全員の原稿提出は大幅に遅れてしまいました。また、各自が工夫したアイディアなどを紹介するコーナーも設けたのですが、これもなかなか理解を得られず労力のいる作業になってしまいました。

今回は私が委員長という立場で編集長役をさせていただきましたが、一連の作業を通して考え続けていたことがありました。それは地域の建築家というスタンスにおいて、(限られたクライアントという範囲ではあるものの)地域の人々に対して私たちが職能を通して責任を果たしていくことの意味でした。芸術的な造形対象としての建築作品づくりも時と場合に応じて大切なことです。一方で地域に密着しながら幅広い分野の多種多様なニーズに応えていくワークスタイルを改めて意識し、アピールしていくかなくてはいけないということです。いつまでも一人よがりな建築家などと思われていては職能を果たしているとは言えません。私たちはクライアントや社会の様々な要求に常に適切に応えていかなければなりません。言わばB-ARCHITECT。私たちの日常においては、高級品や一流品よりも「安くいいもの」を実現していくなければならない場面が圧倒的に多いのが実態です。これは卑下した言い方ではないと思います。そうした社会と融合する姿勢がなければ地域の建築家としての職能の根幹を見失うことになってしまうのではないかと思います。ですから、この本は私たちのワークスタイルをわかってもらうための社会とのコミュニケーションツールなのです。

この本は前回と同じようにメンバーの汗の結晶です。賛助会の皆様にも多大なるサポートをいただきました。皆様のご協力に対して委員長としての立場から厚く御礼申し上げます。vol.2が前回以上の情報発信になってくれることを強く念願しています。



吉備高原都市

場々洋介
(株)フジ設計

12月24日クリスマスイブなのに、寂しいところへ来てしまつた。まるで「夜中の病院の廊下」のようである。少しオーバーであるが、母と泊まつた吉備高原リゾートホテルは、そんな巨大な吉備プラザの中にあり、昼食をとつた和食レストランもその中のテナントである。このビルは平成4年に黒川紀章氏が設計し、ホテル、銀行その他テナントが入つてゐる複合ビルである。内部の設計をしていないためか、どうもしまりがない。長野を出て2日目、昨日泊まつた淡路島のTOTOセミナーハウスの感動に比べると、ただ大きいだけの建物でしかないように思える。バブル期の遺産なのであらうか。

吉備高原都市は、岡山県の中央に位置し、昭和49年に策定した「岡



山県総合福祉計画」に基づき福祉優先の画期的な町づくりを目指した。この土地は、標高300~400mの高原地域の赤松林を切り開き、7つのゾーンが計画された。前期計画(432ha)が平成5年に完了し、福祉、教育、産業面で先進的な施設が建設されたが、人口は計画を大きく下回り計画は失敗であった。後期の計画は、県財政悪化のため平成10年から事業は凍結され、再開される見込みは全くないそうである。

吉備プラザは、その中心の建物であった。この計画は、長野士郎前知事が力を注ぎ「テクノポリスの優等生」と評価されたが、今では「全国で一番厳しい行政改革」を強いられている。計画ではあと9000億円の起債残高を残し財政は破綻寸前。この町へは、シーラカンス設計の吉備小学校と幼稚園を見学に来たのだが、この町を知ってショックを受けた。こんなところにもバブルの爪あとが残っているのだ。帰りのバスを待つてゐるとき、地元の人が私に話しかけてきた。「あそこを歩いている人が前知事の奥さんだよ。あいつは今この町に住み老後を過ごしているが、あいつのおかげで岡山はダメになってしまった！」きついことばであった。インターネットで検索して見ると、この町のことはいろいろ出ている。

しかし、吉備高原小学校はオープンプランで非常に感動した作品でした。

現在の建設事情について



佐藤茂己
元旦ビューティ工業(株)

私達の属している建設業界は現在、氷河期の真っ只中 있습니다。今から数億年前に地球上に巨大な隕石が、衝突し、その爆発で空気中に灰、塵、ガスが立ち込め太陽光の地球への到達が著しく減り、本当の氷河期が起きました。その当時、地球上を支配していた恐竜が急激な環境変化に適応できずに、ゆっくりと、そして、確実に絶滅していきました。同じ氷河期でも平成不況の氷河期に対して、その真っ只中にいる我々も周りの環境の変化を敏感に感じ変わらなければ、かつて地球上を我が物顔で支配していた恐竜が死に絶えたように我々にも同じ結果が待つているのではないかでしょうか。本当の氷河期を生き抜いた哺乳類は毛皮、亀には甲羅と特別な武器がありました、平成の氷河期を生き残るのにも他には無い特徴的な武器が無ければ生き残りは難しいと思います。私の所属している元旦と言う小さな会社も生き残りをかけて過去の屋根材メーカーから脱皮し、環境、健康、機能の3Kを重視し、この平成氷河期に撃って出ます、あっと驚く製品を開発しますので、ご指導の程お願い致します。



薪ストーブについて

伊東敏彦
(株)ノースフィールド

ここ数年、知人から“今薪ストーブが売れているでしょう？煙突のついている家を見かける様になった”と聞かれることが多くなりました。薪ストーブの燃え揺らぐ炎の暖かさ、心安らぐ雰囲気など、このせわしない世の中にあって不思議な安らぎを与えてくれるものとして、お客様から喜ばれる商品です。

しかし、我々、薪ストーブを取り扱う専門会社として“本当に喜ばれる商品とは”と考えますと、販売施工会社と工務店、設計士の責任の重さを考えずにはいられません。家の中で火を焚く事の重大さ、一歩間違えば火災の原因にもなる可能性が多いからです。お客様がそれを生活の中に取り入れ使って頂くには、施主の要望と設計、施工の連携が重要になってきます。この連携がうまくとれ、薪ストーブが入り、火を囲み皆が寄り添い、会話が弾み、心が和み これ程お客様に喜ばれ末永く愛される商品は他にないと自負しております。薪ストーブ会社も、施主が薪ストーブを焚いた時から、施主との間で設計者と同じようなお付き合いが始まるのです。

クラブインサイド

建築見学会・技術交流会・本音で語ろう会・忘年会

久保 隆夫

12月7日（金）松本市にて開催。今回はすべての事業がCPD認定プログラムとなりその成果が期待された。建築見学会は、松本市美術館を51人が見学し設計者の宮本忠長氏が説明した。引き続きホテル「花月」において、コクヨ RDセンター 岸本章弘氏を講師に招き技術交流会「ビジネスを支えるオフィス～変容するワークスタイルと支援環境」について研修、43名が参加。恒例の本音で語ろう会では、今回の『現を抜かす』のテーマに話題が盛り上り、最後は忘年会により多彩な1日を終えた。

第2回事業委員会

片倉 隆幸

1月15日ルートイン松本ICで開催。第10回文化講演会は、松下会長提案の藤原智美氏をお迎えして、講演会とパネルディスカッションを行うことで内容を詰める。あすなろ建築展については次回委員会で討議する。

臨時正副会長・委員長・賛助会長会 松下重雄

1月16日、23日の幹事会議事終了後に群馬・新潟の代表を交えて学生卒業設計コンクールの合同会議開催。文化講演会・あすなろ建築展を検討。5月通常総会の日程と講師を決定。役員改選と事務局体制について検討。

第7回幹事会・技術交流会・新年会 高橋重徳

1月23日長野市メルバルクで幹事会、技術交流会、新年会を開催。幹事会では報告事項に続き議事を協議。通常総会を5月15日開催。記念講演会の講師は、建築家山本長水氏に決定。「JIAあすなろ建築展」は文化講演会に併せて、3月5日長野会場よりスタート県内4会場を巡回することとした。幹事会終了後の「学生卒業設計コンクール」3県（新潟、群馬、長野）合同会議では、各県の状況報告と今後の取り組みについて具体案が協議された。技術交流会、新年会も盛会に行われた。

事業委員会・会員委員会との合同会議 片倉 隆幸

1月28日ルートイン松本ICで開催。あすなろ建築展について活発な討議が行われる。3月5日長野会場から飯田、上田、松本各会場を巡回することで会場候補、責任者を決定し、日程の調整を早急に行う事になった。

クラブアウトサイド

第6回本部会員増強特別委員会 出澤潔

1月31日開催。会員増強の具体的提案に対する理事会の意見について審議し、入会金減額などの入会へのインセンティブについて改めて理事会の理解を得ることとした。会員募集のリーフレット案等についても協議した。

第3回地域サミット

松下重雄

1月27日長野にて開催。県クラブ幹事もオブザーバーとして出席。アキテクツガーデン結果報告、CPD現況報告、会員増強アンケート報告、役員選挙状況等。併催のシリーズ研修会での田中修一氏の講演は大好評。

第9回支部保存問題委員会 依田政司

12月7日開催。保存問題栃木大会の内容について報告があった。旧川越織物市場建物の移築保存に関する検討要望書を提出したとの報告。そのほか栃木県庁舎についての要望書案を検討した。

第5回支部役員会

松下重雄

12月12日開催。支部・本部関連の動行報告。(会計の一本化、部会の位置づけ等)、委員の任期規定改正、役員の重任立候補大澤秀雄氏及び出澤氏、後任監査中村陽子氏の選任を承認。次回は3月20日、賛助会員大会併催。

第8・9回支部教育委員会 市川英一

第8回は11月28日、第9回は12月12日開催。「カルチャーセンター共同事業（見学会）」について、今後は同センターとの体制を見直し、学生及び会員を対象としたCPD認定プログラムとする方向で検討していく。

第6・7回支部団面ライブラリー実行委員会 山口康憲

第6回、12月13日開催。10月20日、27日の2回のセミナーの報告と「茶谷邸見学会」の日程を検討。

第7回、1月15日開催。「茶谷邸見学会」は折り紙建築、ワークショップとの2部構成で3月16日に決定した。

第2回支部選挙管理委員会 甘利享一

12月18日開催。改選の埼玉、茨城、新潟各地域会においては定員の立候補があり無投票にて当選確定。自由選挙においては定員9名に対し2名が確定。欠員の7名においては補欠選挙を行う旨を告示する。

第121回本部理事会

出澤潔

12月18日開催。報告事項17、審議事項6、協議事項3。会の事業・財務の抜本的見直しのため、大字根次期会長を中心に小倉副会長ら数名の会員で立案することにした。CPD推進に向けて各種問題点の論議が行われた。

 JIA長野県クラブ	編集人 依田政司 発行人 松下重雄 発行所 JIA長野県クラブ 長野市南長野妻科 426-1 長野県建築士会館内 TEL 026(232)3897 FAX 026(232)5303 作成 新建新聞社
---	---

皆様からの投稿をお待ちしております。誌面へのご意見もお寄せ下さい。